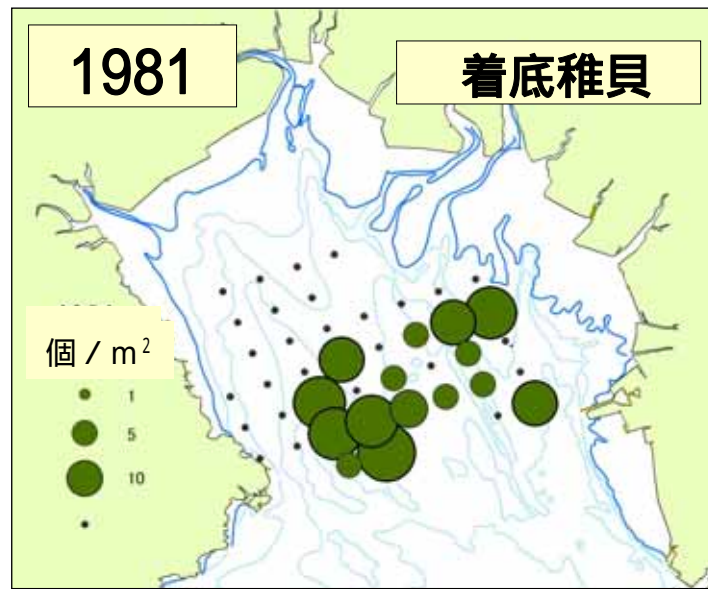
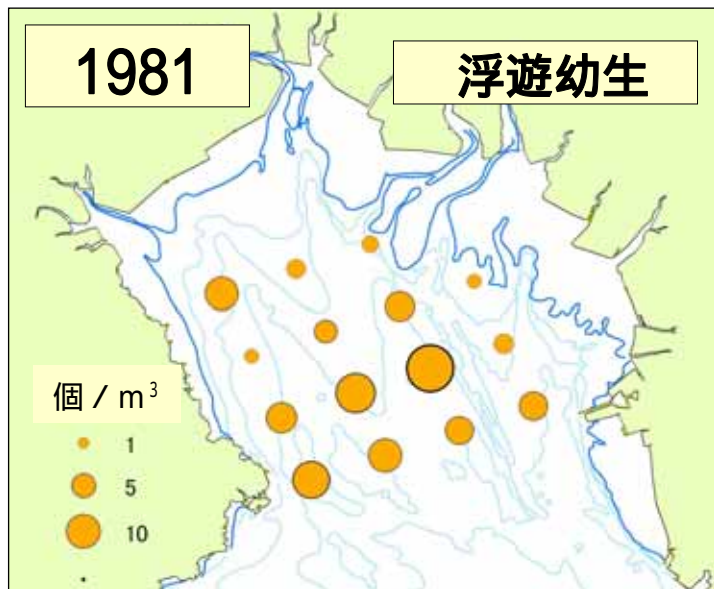
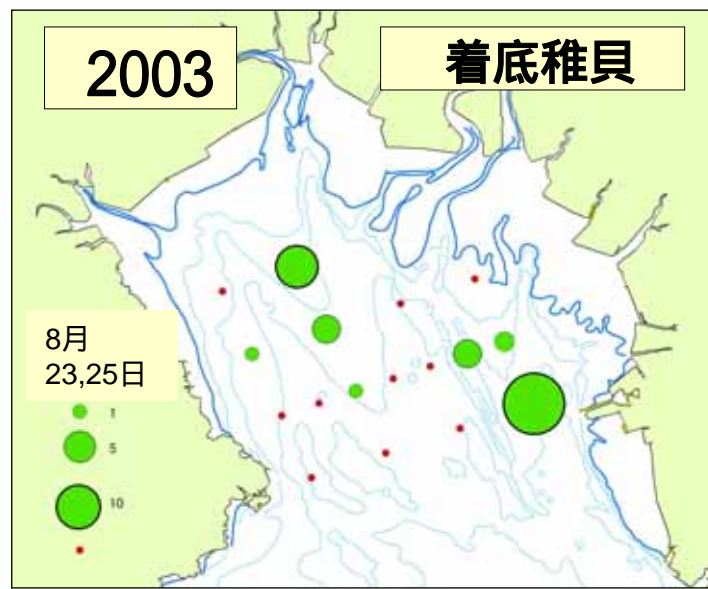
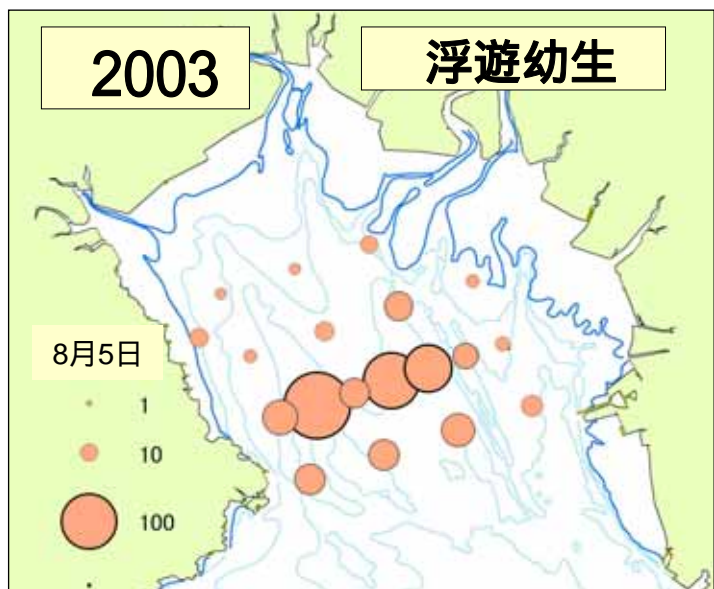
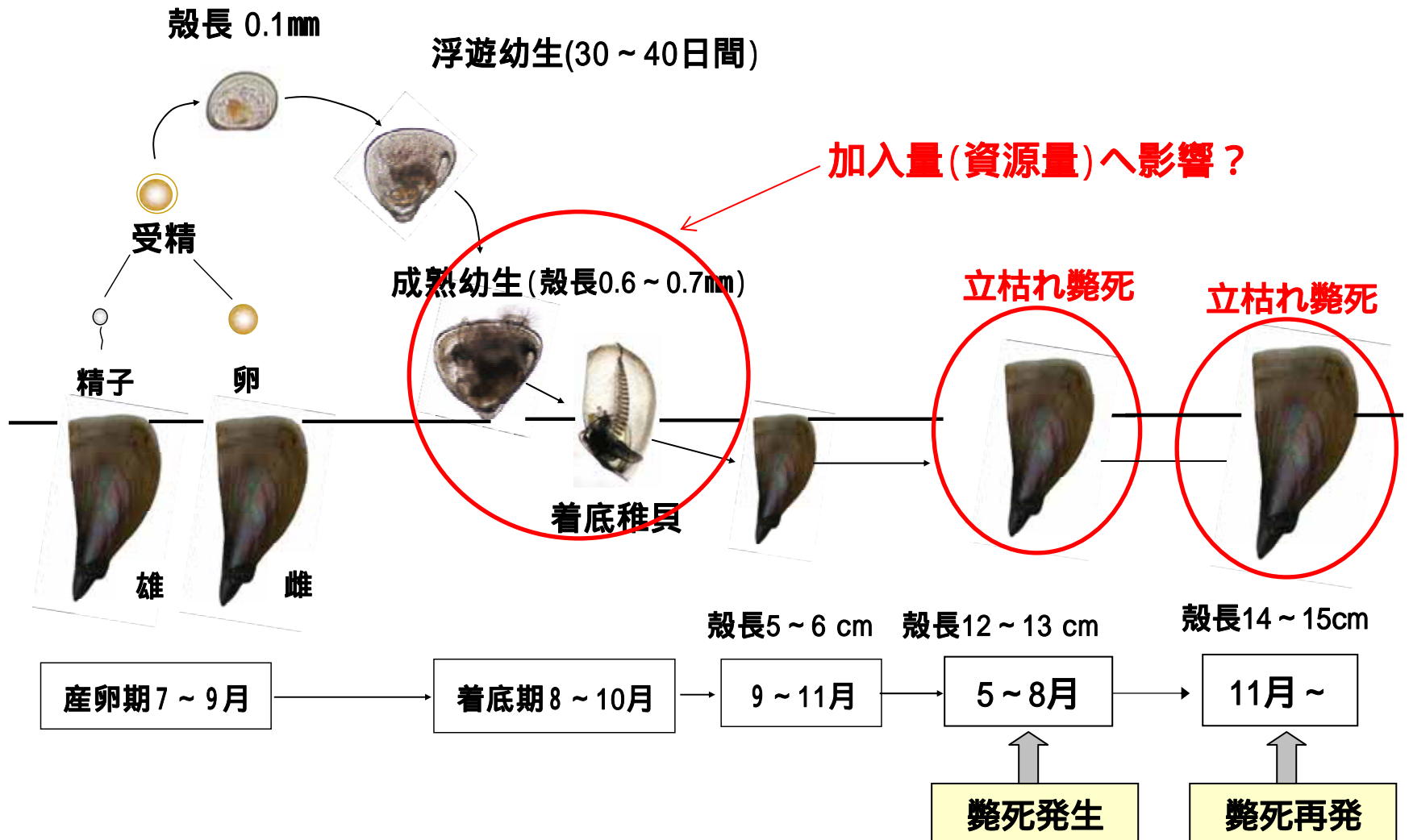


浮遊幼生と着底稚貝の分布域(23年前との比較)

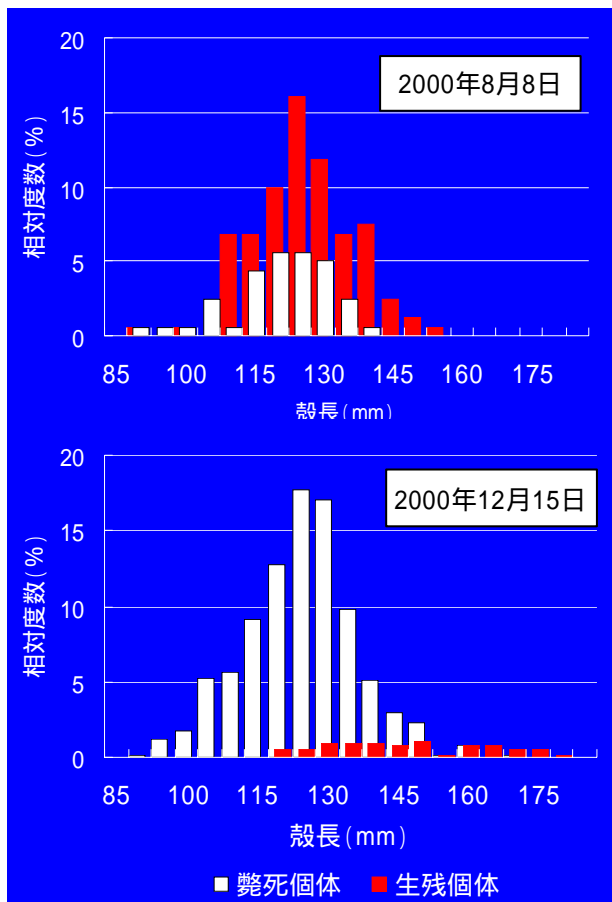
(興石ら 2004)



タイラギの生活史と斃死発生時期



有明海北東部漁場におけるタイラギの大量斃死



斃死個体と生残個体の殻長組成
(川原・伊藤 2002)



正常個体の軟体部



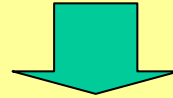
衰弱個体の軟体部

これまで解ったこと

成員の大量斃死

- ・成員の立枯れ斃死
- ・着底から約1年後の5月頃から発生
- ・北東部漁場不漁の大きな要因

・生理、病理、生育、環境に関する調査



- ・貧酸素は主因ではない
- ・着底から約3ヶ月後には、すでに活力が低下
- ・干潟域では起こらない
- ・鰓、腎臓にウイルス様粒子を確認

原因

現在のところ不明



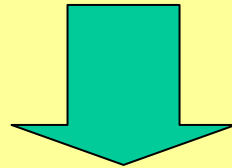
これまで解ったこと

成貝の消失

- ・成貝がある日突然いなくなる
- ・海底にバラバラの殻と窪みが散在
- ・4～11月に発生



- ・昼間潜水観察
- ・夜間ビデオ観察
- ・胃内容物調査



原因



ナルトビエイによる食害

参考文献

- 1)吉本宗央(1998):有明海湾奥部におけるアゲマキ資源の変動.水産海洋研究,62,121-125.
- 2)S.Suzuki,T.Nakata,M.Kamakura,M.Yoshimoto,Y.Furukawa,Y.Yamashita and R.Kusuda(1997):Isolation of birnavirus from Agemaki(Jackknife clam)*Sinonovacula constricta* and survey of the virus using PCR technique.Fisheries Science,63,563-566.
- 3)岡山水試・山口内海水試・佐賀有明水試験・南西水研(1988):サルボウのへい死要因解明のための養殖試験().南西水研,1-82.
- 4)中原康智・那須博史(2002):主要アサリ産地からの報告-有明海熊本県沿岸.ベントス学会誌,57,139-144.
- 5)那須博史・平山泉・中原康智・陣内康成・鳥羽瀬憲久(2004):1992年から2003年にかけての緑川河口域のアサリ分布状況.熊本県水産研究センター研報,6,15-29.
- 6)那須博史(2004):有明海熊本県沿岸のアサリ資源の現状と今後の課題.MF21,49,25-34.
- 7)石松 惇・吉田智恵子・川原逸朗・伊藤史郎・松井 繁明・筑紫康博(2002):有明海北東部漁場におけるタイラギの斃死5.低酸素水中の酸素消費量の比較.2002年度日本水産学会講演要旨集.
- 8)大隈 斉・江口泰蔵・川原逸朗・伊藤史郎(2001):有明海湾奥部の底質およびマクロベントス.佐有水研報,(20),55-62.
- 9)吉田智恵子(2003):寄生条虫がタイラギの低酸素耐性に及ぼす影響について.長崎大学大学院生産科学研究科博士前期課程終了論文.
- 10)川原逸朗・伊藤史郎(2003):2000,2001年夏季に有明海北東部漁場で発生したタイラギの斃死 - 発生状況.佐有水研報,(21),7-13.
- 11)川原逸朗・伊藤史郎・筑紫康博・相島 昇・北村等(2004):有明海北東部漁場で発生したタイラギの斃死 -.佐有水研報,(22),17-23.
- 12)前野幸男・塚本達也・渡邊康憲(2002):有明海におけるタイラギの大量死の病理学的解析.西海区水産研究所主要研究成果集,7,14-15.
- 13)秋本恒基・林宗徳・岩淵光伸・山元憲一(2004):リシケタイラギの致死酸素飽和度.水産増殖,52(2),199-200.
- 14)伊藤史郎(2004):有明海における水産資源の現状と再生.佐有水研報,(22),69-80.
- 15)輿石裕一・鈴木健吾・塚本達也・前野幸男・相島 昇・筑紫康博・吉田幹英・伊藤史郎・川原逸朗・山本憲一・藤井明彦・松田正彦・平山泉・那須博史・渡邊康憲(2004):有明海におけるタイラギ稚貝及び浮遊幼生の分布-22年前と比較した2003年の分布量と分布域-.2004年度日本ベントス学会講演要旨集.
- 16)Y.Maeno,T.Yurimoto,H.Nasu,S.Ito,N.Aishima,T.Matsuyama,T.Kamaishi,N.Oseko and Y.Watanabe(2005):Virus-like particles associated with mass mortalities of the pen shell *Atrina pectinata*, (submitted).
- 17)山口敦子(2003):有明海のエイ類について - 二枚貝の食性に関連して - 月刊海洋,海洋出版,東京,35(4),241-245.
- 18)川原逸朗・伊藤史郎・山口敦子(2004):有明海のタイラギ資源に及ぼすナルトビエイの影響.佐有水研報,(22),29-33.
- 19)A.Yamaguchi,I.Kawahara and S.Ito(2004):Occurrence, growth and food of longheaded eagle ray, *Aetobatus flagellum*, in Ariake Sound,Kyusyu,Japan,(submitted).